

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑱

カリキュラム・マネージャー

令和7年度の事業の方向性を確認・・・合同委員会

3月17日（月）更農 SAS 委員会と中高養の「交流及び共同学習」委員会による合同委員会が開催されました。

今回は、第3回連携協議会で確認した「成果と課題」をもとに、令和7年度の具体的な取組の方向性が共有されました。その概要は次の通りです。

（学校間交流）

- 2学年の学校間交流（交流学习）は 10月7～10日のいずれかで調整する。また、オンラインなどを活用し、事前に生徒同士の顔合わせができるような取組を工夫する。（小グループでの実施も検討）

（研修の充実）

- 公開研や講演会などを活用した研修の交流は昨年度同様に実施する。
- 初任段階教員研修は、双方向で実施できるように検討する。

（連携校の教育資源を活用した教育活動）

- 「共に学ぶ会」はアンケート結果（裏面参照）を踏まえ、現状の回数・時間で進める。また、資料となる「ふきのとう」はICTを活用してすべての先生がアクセスできるように工夫する。
- これまで別々に実施していた「道の駅」の植栽活動や両校での植栽活動は日時を合わせ合同で実施できないか検討する。
- 両校の行事への参加（学校祭など）を検討する。
- 人・物の行き来を活発にする2年目にする。（例：更農製品を仕入れて普通科で販売、普通科のコーヒーを更農で販売）
- 年度初めに、両校で「受入可能な授業等」を集約し、情報提供し合う。

（新たな「交流及び共同学習」）

- 新たな「交流及び共同学習」については、本年度実施した教科等を基本に対象生徒を広げる方向で充実し、これ以外の活動については「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項を活用して実現する。

（その他）

- 生徒アンケートは年度末ではなく、年度初めに実施する。
- 生徒の移動に関わる費用など、「モデル事業」の予算に計上されていない必要経費は、事務の協力を得て確保するよう努める。

合同委員会とは

先生方が主体となって「インクルーシブな学校運営モデル事業」を推進できるようにするため、年度当初に、「**交流及び共同学習実施要項**と「**連携校の教育資源を活用した教育活動**」**実施要項**を策定しています。

この2つの実施要項に、「年度末に両校合同による委員会を開催し、当該年度の成果や課題、次年度の実施方針を共有する」と定めています。

第6回「共に学ぶ会」を実施

テーマ「苦手なことには初めから取り組もうとしない生徒の理解と対応」

3月21日(金)、「共に学ぶ会」が11名(更農6名、中高養5名)の先生が参加してオンラインで実施されました。

今回示された事例は「思いはあるのに自分の意見を発信することが苦手なAさん」で、「意見を言えない訳」や「Aさんができること、周囲の教師や友人ができること」などについて、様々な観点から迫りました。

先生方本人も、多かれ少なかれ事例と重なるところが思い当たり、自身の経験も交えながらの和やかな意見交流となりました。

また、生徒の実態について話し合う場面では、テーマに該当する生徒の名前が何人もあがり、入学時からこれまでの成長や現在の様子について意見交換していました。



更農の意見交換の様子

同様の頻度・時間で継続・・・令和7年度の「共に学ぶ会」

本年度は両校の特別支援教育コーディネーターが研修テーマを設定し、月1回程度のペースで6回実施しました。ま

「共に学ぶ会」参加者へのアンケート R7.1.31(第4回目実施後)															
実施回数		研修時間				実施方法			研修テーマ						
多い	少ない	適切である	長い	短い	適切である	オンラインがよい	直接対面がよい	参加方法を選択できるとよい	更農からテーマを提案	中高養からテーマを提案	交互に提案	計画を作成	テーマを集約し年間	どちらからでもテーマを提案	どちらでもよい
2	2	10	0	0	14	1	5	8	5	3	1	1	1	1	1

た、第4回目については更農を会場に、放課後、対面で行ったところです。

こうした中で、参加された更農の先生方へのアンケートを実施したところ、今後も同様の回数や時間で継続実施を望む声が多く上がっています。表にはありませんが、放課後や長期休業中の活用を希望する声も複数上がっていました。

先に開催された第3回連携協議会と両校の合同委員会においても、「特別な支援を必要としている生徒の理解が深まっている。」「指導の手立てを得る身近な機会となっている。」と、取組の成果が共有されています。

アンケート感想(全体を通して何かあればお願いします。)

いつもありがとうございます。話し合いをするにしても、中高養の先生方がいるととても参考になります。
養護学校の先生から、専門的な話を聞くことができよかったです。ありがとうございました。
毎回参加できず、申し訳ありません。ただ、1~2カ月に1回程度、このような機会があると良いと思いました。
毎回ありがとうございます。勉強になっています。
直接顔を合わせての研修に参加させていただきました。話の内容の温度感が伝わってきてよかったです。
参加していただいてありがたい。一緒に学べてよかったです。
持続可能な研修会になることを期待しています。両校の教師が直接、話し合いながら学ぶ機会は教育実践の充実に繋がると思います。今後は、参加メンバーが固定されることなく、広がりを持てるような在り方を検討する必要があると考える。
お互いの学校を知る機会にもなると思います。継続できるとよい。

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。